

ベトナム人技能実習生に関するマスメディアの報道は何を伝えているのか

—ポータルサイトによるニュース配信に着目して—

王滢鵬(大阪大学大学院生)

1. 研究背景

これまで日本政府は移民政策という用語を使用せず、国家としては移民受け入れの重要性を否定してきたが、実際には、「研修生」や「技能実習生」といった名称を用いながら、外国人を短期的に受け入れている(望月, 2019)。2022年6月末現在、日本では、約33万人の技能実習生が在留しており、国籍別では、ベトナム人技能実習生は約18万人で、技能実習生の総数を一番多く占めている¹。外国人は技能実習制度を通して技能実習生になる。当制度は日本の技術を発展途上国へ移転するための人材開発という建前を謳いながら、その実態は労働力不足を補完するものとして機能しており、日本国内外から批判を受けている(指宿, 2017; 程, 2020)。

近年、ベトナム人技能実習生の受け入れに伴う社会問題がマスメディアに報じられている。しかしながら、マスメディアは現実の一部を再構成したものを伝えているため、その談話には意図的な取捨選択や情報操作の可能性が潜んでいる(今村, 2017)。2022年8月現在、テキスト系ニュースサービスの中、最も利用されているのは約46.5%の割合を占めるポータルサイトによるニュース配信である²。

2. 先行研究と本研究の目的

ベトナム人技能実習生に関する研究は、彼ら・彼女らが来日するまでの問題点、来日後に失踪する問題、及び来日する動機やキャリア意識に集中している。前者の2つの問題については、斎藤(2018)と石塚(2018)などの研究が挙げられる。後者については、グエン(2013)、西川(2019)、宮谷(2020)などの研究が挙げられる。しかしながら、マスメディアがベトナム人技能実習生を報道する際の記述に焦点を当てた研究は見当たらない。そこで、本研究ではポータルサイトが発信するベトナム人技能実習生をめぐるニュースを分析し、その記述に存在する問題、およびそこに使用されているストラテジーを明らかにすることを目的とする。

3. 方法論と理論的枠組み

上記の目的のため、本研究では量的な分析と質的な分析を行う。量的な分析には「KH Coder」を用い、質的な分析には批判的談話研究(Critical Discourse Studies: 以下CDS)を用いる。

「KH Coder」はテキストを計量的に分析するためのツールである。それにより、テキストの内容を語単位に分解できる。本研究の量的分析では、「KH Coder」の機能の一つである「抽出語リスト」を利用し、ニュースで多く現れる語を確認する。

CDSは、社会問題に目を向け、弱者側の立場に立つと同時に、談話の中に現れる実践と権力の意図を炙り出すことにより、最終的には社会変革を促す(名嶋, 2015; 野呂, 2009)。談話を社会的実践として捉えるCDSはこれまで人種差別、女性蔑視、外国人嫌悪といった談話に潜んでいるストラテジーや自明視されている思想を明るみに出してきた(野呂, 2009)。CDSでは、談話に対する批判的な態度が特徴的である。その批判とは、談話の中に表されていることの矛盾やその限界、また、談話が「特定の言表、行為、物を理性的で、何らの疑問の余地がないように見せている手段を明らかにすることを意味する」(イェーガー&マイヤー, 2018: 174-175)。イェーガー(2010)は、新聞や雑誌などのマスメディアの談話を全体的に分析する際の項目や着目点などをまとめてリストを提示したが、さらに野呂(2015)と名嶋(2015; 2018)はそのリストの有効性を検証した。本研究の質的分析では、名嶋(2018)が整理した「詳細な分析のためのガイドライン」を援用し、ニュースの文字テ

¹ 出入国在留管理庁(2022)「令和4年6月末現在における在留外国人数について」を参照する。

<<https://www.moj.go.jp/isa/content/001381744.pdf>>

² 総務省(2022)「令和3年度 情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査報告書 <概要>」を参照する。

<https://www.soumu.go.jp/main_content/000831289.pdf>

キストの部分を詳細に分析する。当ガイドラインでは、新聞や雑誌などを分析する際の項目や着目点が示されている。本研究は当ガイドラインにある言語的・修辭的手段という分析項目を中心に、「論理と構成」、「含意、ほのめかし」、「慣用句、ことわざ、きまり文句」、「語彙と文体」、「登場人物(人物、代名詞の使われ方)」と「引用、学問への依拠、情報源の掲載」に着目して分析する。

4. 分析データ

Yahoo!ニュースとGoogle ニュースの公式サイトにて、2021年10月11日24時までアクセスできるベトナム人技能実習生に関するニュースを集めた。検索に使用したキーワードは表1に示したとおりである。両サイトが共有するニュースもあったが、どちらか一つを集めた。書評や映画鑑賞などは除き、ベトナム人技能実習生に関する内容のあるニュースだけを抽出した。その結果、合計215本のニュースが抽出された。この215本のニュースを「KH Coder」により量的に分析した。

表1 検索用キーワード

ベトナム人技能実習生	技能実習生
ベトナム人&技能実習生	外国人技能実習生
ベトナムの技能実習生	

5. 分析結果

5.1 量的分析

「KH Coder」の「抽出語リスト」によって語を抽出した結果は表2に示した。表を見ると、ニュースの中には、ベトナム人技能実習生（「ベトナム」2482回、「技能実習生」1849回）、送り出す側の送り出し機関（「送り出す」641回、「機関」472回）、受け入れ側の監理団体（「監理」389回、「団体」519回）および受け入れ企業や会社（「企業」637回、「会社」730回）を表す語が多いことが分かる。また、日本語教育（「日本語」662回）、借金（「借金」542回）、賃金（「賃金」321回）、失踪（「失踪」258回）といったベトナム人技能実習生の受け入れをめぐる問題に関する内容が多く取り上げられていることが観察できる。

表2 高頻度語のリスト

	抽出語	回数		抽出語	回数		抽出語	回数
1	ベトナム	2482	18	団体	519	35	女性	287
2	実習	2058	19	帰国	510	36	状況	287
3	日本	1868	20	コロナ	490	37	相談	287
4	技能実習生	1849	21	機関	472	38	在留	270
5	人	855	22	支援	437	39	出る	267
6	労働	841	23	問題	393	40	話す	265
7	働く	789	24	監理	389	41	失踪	258
8	会社	730	25	受け入れ	384	42	言う	253
9	外国	708	26	生活	380	43	思う	247
10	仕事	667	27	多い	353	44	政府	244
11	日本語	662	28	就労	350	45	社会	241
12	送り出す	641	29	受ける	327	46	男性	239
13	企業	637	30	家族	326	47	費用	233
14	技能	598	31	日本人	323	48	関係	229
15	制度	564	32	賃金	321	49	行く	229
16	来日	562	33	前	319	50	新型	225
17	借金	542	34	留学生	314			

5.2 質的分析

5.2.1 分析前の準備

本研究では、ベトナム人技能実習生に関する内容が集中的に見られる、上述した高頻度語の出現回数が最も多い、上位5つのニュースを詳細に分析する。また、より多くの情報源を分析するため、同じ筆者や新聞社のニュースであっても、高頻度語の出現回数が最も多いものを取り扱う。質的に分析するニュースは表3に示したとおりである。

表3 ニュースのリスト

	大見出し	日付	段落数
①	「草の根で実習生を支える」(5)技能実習制度が構造的に構築する「歪み」、制度の不足補う人とのつながり	2017/3/22	114
②	なぜベトナムの若者は日本の技能実習生になるのか——ハノイで見た「それでも」行く理由	2018/12/20	67
③	ベトナム人が見た日本～実習生・留学生急増の陰で～	2018/10/18	41
④	ベトナム人実習生(外国人技能実習制度)を雇用する際の注意点	2020/2/14	46
⑤	コロナで来日できない、それでも技能実習生の面接を続ける事情	2020/8/22	26

5.2.2 分析

以下、ニュース②と⑤の抜粋を示しつつ分析を進める。ニュース②の前半では、技能実習生が来日前に送り出し機関で過ごす集団生活の様子、後半では、ベトナム人が技能実習生になる原因及び、技能実習生を取り巻く問題を説明している。抜粋1はニュース②の後半の技能実習生を取り巻く問題に関する記述である。

<抜粋1：ニュース②の段落(62)～(66)>

(62)在ベトナム日本国大使館によれば、この10月、日越外交関係樹立45周年事業の一つとして行われたセミナーには、留学や技能実習での訪日を希望する若者、送り出し機関の関係者ら約240人が集まった。

(63)彼らを前に大使館の代表者は、こう話している。

(64)「日越両国の交流の拡大は大変喜ばしいことであり、多くのベトナム人の若者が日本で働いています。しかし、留学・技能実習の急増により問題も生じています。技能実習生の失踪者数はワースト1位で、全体の半数以上をベトナムが占めています。昨年の刑法犯の検挙件数はベトナムがワースト1位です」

(65)そして、こう続けた。

(66)「ベトナムの若者は夢や希望を抱いて訪日しており、決して最初から犯罪をしようと思って日本に行っているのではなく、犯罪せざるを得ない状況に追い込まれています。ベトナム、そして日本において、悪徳ブローカー、悪徳業者、悪徳企業がばっこしており、ベトナムの若者を食べ物にしています。日本におけるベトナムのイメージ、そしてベトナムにおける日本のイメージが悪化することを懸念しています」

本抜粋では「在ベトナム日本国大使館」の「代表者」の発言が直接引用されている。

段落(64)では、「しかし」が用いられ、「留学・技能実習の急増」による「問題」が示されている。段落(66)には、ベトナムの若者は「犯罪せざるを得ない状況に追い込まれています」という文がある。ここでの「状況」はベトナムと日本で「悪徳ブローカー、悪徳業者、悪徳企業がばっこしており、ベトナムの若者を食べ物に」しているということである。「せざるを得ない」は「しないわけにはいかない。やむをえず...する」(『デジタル大辞泉』)ことを意味する。「食べ物」は「利用されるもの(『日中辞典 第3版』)」という意味である。これらから見れば、「大使館の代表者」は(ベトナム人技能実習生をも含めた)在日ベトナム人は犯罪を能動的に行うのではなく、悪徳なブローカー、業者、企業に利用された結果やむをえず犯罪を行っているにすぎないということが伝えられている。ベトナム人技能実習生の犯罪は、直接的には悪徳ブローカー、業者、企業によるものと考えられるが、間接的には技能実習制度の問題も無視することができない(望月, 2019; 安田, 2021)。しかし、「大使館の代表者」の発言には、制度的なことが全く言及されていない。つまり、本来なら制度上の問題の責任も問われてしかるべきだが、その責任がすべて「悪徳ブローカー、悪徳業者、悪徳企業」に転嫁され、結果的には、制度上の問題が不問に付されてしまっている。ここでは、制度上の問題の責任を他者に転嫁するという「責任転嫁」のストラテジーの使用が見られる。これらの発言は「大使館の代表者」によるものであるが、反対意見が記述されていなかった。そのため、本ニュースの筆者は「大使館の代表者」と同様な立場に立つと同時に、その発言の内容に賛成した上、直接引用していると判断できる。

また、在ベトナム日本国大使館は国レベルの権力を持っているため、「大使館の代表者」の発言は一定の権威を有するものとみなすことができる。このことから、権威性のあるものを用いることにより、「隠蔽」を達成するという「権威性の強調」のストラテジーの使用も見られる。

次に、ニュース⑤の抜粋を分析する。ニュース⑤では、ある実習生の監理団体の専務理事(抜粋中の寸田善久氏)に対するインタビューの内容が載せられている。前半では、コロナの状況下における技能実習生を受け入れる状況、ベトナム人技能実習生と監理団体や受け入れ企業の関係、後半では、ベトナム人が日本に来る原因、技能実習生受け入れへの期待が寸田善

久氏によって説明されている。抜粋2は後半のベトナム人が日本に来る原因に関する記述である。

<抜粋2：ニュース⑤の段落(20)～(21)>

(20)それでも面接を受ける人がいるのはなぜなのか。寸田さんは「日本で働くしか生活を変えられない、生きていけない人が本当にいるんです」と訴える。

(21)「例えば、いまベトナムで待っている女の子は3歳ぐらいの子どもがいます。採用が決まったときは2歳でした。こんな小さな子どもを置いて、お母さんが日本に行くなんてどうなのか、って日本人なら思うでしょう。でも、夫が交通事故で亡くなり、お父さんは農業といっても自給自足で、月に10日ぐらい韓国系の工場で働いて約1万円を稼いでいるだけ。お母さんは病気で入院中です。だから、彼女は『子どもができたから、日本に行くんです』と言うんです。子どもにご飯を与え、生きさせるために行くんですね」

段落(20)の文「日本で働くしか生活を変えられない、生きていけない人が本当にいるんです」では「しか～ない」の使用が見られる。また、段落(21)では、ベトナム人は「子どもにご飯を与え、生きさせるために」日本に行くことが述べられている。これらにより、ベトナム人にとって「日本で働く」ことの重要性だけではなく、制度の重要性をも表されている。ただし、日本はベトナム人が海外に出稼ぎに行くための唯一の選択肢であるわけではない。ベトナム政府が打ち出した労働力輸出政策によって、ベトナム人は日本、台湾、韓国やドイツなど複数の国で働くことができる(石塚,2018)。日本以外の国でも働く機会を得られるため、制度の重要性はここで誇張されて語られていると言える。これは「重要性・意義の誇張」のストラテジーといえよう。

6. 考察

分析を通して、ニュースにおける技能実習制度の制度上問題への「隠蔽」が明らかになった。「責任転嫁」、「権威性の強調」、「重要性・意義の誇張」というストラテジーが使用されていることが分かった。それ以外にも、ここでは取り扱うことができなかったが、「問題の否認」と「前向きな情報の表明」というストラテジーの使用も明らかになった。

参考文献

- グエン・ティ・ホアン・サー(2013). 日本の外国人研修制度・技能実習制度とベトナム人研修生 社会学研究科篇, 41, 19-34.
- 指宿昭一(2017). 構造的問題を継いだ新たな外国人技能実習制度 労働法律旬報, 1897, 13-17.
- 今村和広(2017). 平和と脱原発を考えるためのメディア・リテラシー 名嶋義直(編) メディアのこぼれを読み解く7つのこころみ ひつじ書房 pp. 29-50.
- 石塚二葉(2018). ベトナムの労働力輸出：技能実習生の失踪問題への対応 アジア太平洋研究, 43, 99-115.
- 宮谷敦美(2020). ベトナム人技能実習生の帰国後のキャリア意識：元技能実習生日本語教師へのアンケート調査を基に 愛知県立大学外国語学部紀要, 52, 275-291.
- 望月優大(2019). ふたつの日本：「移民国家」の建前と現実 講談社現代新書
- 名嶋義直(2015). 無料配布の観光案内小冊子に見る関西電力の談話実践：批判的談話分析の観点から 文化, 79(1・2), 25-46.
- 名嶋義直(2018). 辺野古新基地建設をめぐる社説の批判的談話研究 批判的談話研究をはじめ ひつじ書房 pp. 75-101.
- 西川直孝(2019). ベトナム人帰国技能実習生の就業状況に関する調査：就業選択行動と収入を中心に 移民政策研究, 11, 114-127.
- 野呂香代子(2009). クリティカル・ディスコース・アナリシス 野呂香代子・山下仁(編) 「正しさ」への問い：批判的社会言語学の試み 三元社 pp. 13-49.
- 野呂香代子(2015). 「環境・エネルギー・原子力・放射線教育」から見えてくるもの 名嶋義直・神田靖子(編) 「3.11 原発事故後の公共メディアの言説を考える」 ひつじ書房 pp. 53-100.
- 齋藤善久(2018). 日本で働くベトナム人労働者：問題状況とその背景 連合総研レポート, 337, 15-19.
- 程多聞(2020). 政策理念視角下日本外籍労働者政策困境的成因分析 現代日本経済, 229, 26-39.
- 安田峰俊(2021). 「低度」外国人材 角川書店
- イェーガー・ジークフリート(2010). 談話と知 批判的談話分析および装置分析的理論的、方法論的側面 山下仁(訳) 「批判的談話分析入門」 三元社 pp. 51-91.
- イェーガー・ジークフリート&マイヤー・フロレンティン(2018). 談話と装置を分析する フーコー派アプローチの理論と方法論 野呂香代子(訳) 批判的談話研究とは何か 三元社 pp. 162-198.